

国語科学習指導案

富田林市立小金台小学校

指導者 新庄 加代子

1. 日時

令和4年 12月1日(木) 第5校時(13:25~14:10)

2. 学年・組

第2学年1組(34名)

3. 単元名 教材名

そうぞうしたことを、音読劇であらわそう「お手紙」 光村図書・2年

4. 単元目標

- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。(知(1)ク)
- ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。(思C(1)エ)
- ・文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。(思C(1)カ)

5. 指導にあたって

(1) 教材観

本教材はがまくんとかえるくんを主人公にしたシリーズ(4冊)の中のお話のひとつである。「お手紙」は、今まで一度もお手紙をもらったことがないがまくんの不幸せを、かえるくんと一緒に悲しみ、そして訪れた幸せ(かえるくんが、がまくんにお手紙を出す)を共に喜ぶという、ほのぼのとした心情を描いた作品となっている。特別な事件が起こるわけでもなく、かたつむりくんが運ぶ4日遅れの、しかも内容の分かっている「お手紙」を、仲良く待ち続ける二人。がまくんは、手紙を受け取る幸せだけでなく、かえるくんの優しさに気づき、かえるくんという友だちがいることに幸せを感じていることが考えられる。かえるくんは、悲しんでいる親友の気持ちに寄り添い、自分が手紙を書いて親友を喜ばせることができたということに喜びを感じているだろう。おそらく言葉にしなくても、相手が自分にとって大切な存在だと改めて感じた二人の心の交流は、読み手までも幸せな気持ちにしてくれる。子どもたちには共感をもって読み取らせたい。そして、「友だちっていいな。」と、子どもたちに感じてもらいたい。

(2) 児童観

本学級では、自分の思いを書いたり、話したりすることを大切に取り組んできた。それは、短い言葉でも、「『いいな』と思った人の真似でもいいから。」と、自分で表現することが大切だと声かけしてきた。まだまだその方法を選ぶのに迷う子もいるが、取り組んでいるところである。「こういう方法もあるよ」「これでいいよ」とやり方を示し、できたことを受け入れ、ほめることで安心して表現できるようになってほしいと考えている。また、そういう場や時間を積み重

ねていくことで慣れていくことも必要だと思っているので、1学期からできるだけ機会を多くもつことを心掛けた。2学期からは一人ひとりが自由に話すスピーチも取り入れてきた。

また、書くことについては、1年生の時から毎日、短い日記を書くことを続けている。これは、ひらがなの習熟と子どもの生活を知るためにとの取り組みだったが、他の児童の日記を紹介していくうちに自分の思いを書いてくる子どもが増えて、ずっと続けている。書くことに慣れてきたことが、今取り組んでいる「ふり返し」を書くことにもつながればと思っている。まだまだ苦手な子はいるので、その都度、声をかけ、方法を紹介したり、他の子のものを見せて手本にしたり、と方法を模索している。

(3) 指導観

児童はこれまでに、「ふきのとう」「スイミー」「わたしはおねえさん」の3つの物語文を学習してきた。どの教材も自分の意見を他者と交流する場面を設定することで、考えや読みを深めることに繋げてきた。その際に、叙述をもとに考えさせることも大切にしてきた。どの文から、どの言葉からどのように考えたのか「わけ」を考える指導をしてきた。

本単元では、今までの学習を活かし、自分の意見を伝えながら、話し合い活動を行い、互いの考えを交流し、感じ方や考えたことに違いが生まれることを確認させたい。その際に、根拠となる叙述などを指摘させることで「同じところから、自分はこう思った」と違う感じ方や考えが出てくることになり、作品を読み深めることに繋がると考えている。

この物語の主題は、がまくんとかえるくんの「相手を思う優しさと、友だちの存在が喜びであること」ではないかと考えている。そこで、本単元では、かえるくんが相手を思って行動をおこし、それが伝わった時に喜ぶがまくんと優しく見つめるかえるくんのあたたかい心の交流を考えさせたい。

① 話し合い活動

話し合い活動については、まず話し合う内容について自分の考えを書く。その時に叙述や挿絵などをもとに考えるようにする。次にそれをペアで伝え合う。まだ、全体の場では発表するのが苦手な子もいるので、ペアという一番身近なところで思いを伝え合うことにした。そこで同じところや違うところを見つけたりして、必ず返事(反応)をすることを約束してきた。(「ペア学習のすてきな言葉」プリント)相手から受け入れてもらえた安心感で、発表する意欲を持つ子どもが増えてきた。そして全体での話し合いを行う。友だちの考えを聞き、改めて自分の考えと比較したり、いろいろな考えがあることを知ることで、そのおもしろさを感じてほしい。

② めあてとふり返し

授業の最後にはふり返しを書く。子どもたちには、「みんなで話し合ったりして学習したことを忘れないように文字で書く」ということを伝えてきた。めあてとずれたふり返しにならないように、書く前にめあてを確認している。また、書き方の型を示したり、単元によっては書き始めの言葉を示したりしてきた。また使ってほしいキーワードを出すこともしてきた。授業の流れがわかるよう板書も工夫し、ふり返しを書く時に考えるきっかけになるようにしている。

また、友だちがどんなふり返しを書いたかを紹介することで、次に書く時の参考になるようにした。

6. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。((1) ク)</p>	<p>・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C (1) エ)</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C (1) カ)</p>	<p>・粘り強く場面の様子に着目して登場人物の行動を想像し、学習課題に沿って音読劇に取り組もうとしている。</p>

7. 単元計画 (本時 8 / 12)

時	○学習活動	◇指導上の留意点	・評価規準
1	<p>○全文の範読を聞き、単元の学習の見通しをもつ。</p> <p>○「好きなところ、心に残ったところ」の初発の感想を書く。</p>	<p>◇これまでの音読学習を想起させるなどして、単元のめあてを設定する。</p>	<p>・単元の目標を知り、学習の見通しをもって音読劇に取り組もうとしている。</p> <p>【主】</p> <p>・お話を読んで、初発の感想を持っている。</p>
2・3	<p>○場面や登場人物の行動を確かめ、あらすじを捉える。</p> <p>○感想を発表し合う。</p>	<p>◇場所を基本に場面を分け、登場人物やその主な行動を整理する。</p>	<p>あらすじを捉え、どんな場面が描かれているか考えながら、感想を伝え合い、一人ひとりの感じ方や考え方に違いがあることに気づこうとしている。</p> <p>【主】</p>
4	<p>○1場面でのかえるくんやがまくんの行動や気持ちを想像してなりきって音読する。</p> <p>○二人の悲しい気分の理由について考える。</p>	<p>◇挿絵を切り口に叙述に合わせて登場人物の行動を具体的に捉えさせる。</p> <p>◇挿絵から二人の悲しい気分の理由の違いに気づかせたい。</p>	<p>・語のまとまりに気をつけて音読をしている。</p> <p>【知】</p> <p>・登場人物の行動やその理由、表情、口調、様子などを想像している。</p> <p>【思・判・表】</p>
5	<p>○2場面のかえるくんの行動を具体的に想像して、なりきって音読する。</p>	<p>◇「とび出し」などの語句を動作化することで、登場人物の行動をより具体的に想像させる。</p>	<p>・思ったことや感じたことを伝え、自分と他者の意見を比較して考えている</p>

	○なぜ、かえるくんは自分で手紙をわたしに行かなかったのか考える。		【思・判・表】
6	○3場面のかえるくんとがまくんの行動や気持ちを想像してなりきって音読する。 ○なぜ、かえるくんは手紙が来ることを言ってしまったのか考える。	◇叙述に合わせて、登場人物の行動を具体的に捉えさせる。	・読んで考えたことを伝え、一人ひとりの感じ方や考え方に違いがあることに気づこうとしている。 【主】
7	○4場面のかえるくんとがまくんの行動や気持ちを想像してなりきって音読する。	◇叙述に合わせて、登場人物の行動を具体的に捉えさせる。	
8 本時	○5場面のかえるくんとがまくんの行動や気持ちを想像してなりきって音読する。 ○二人のしあわせな気もちの理由について考える。	◇挿絵や叙述に合わせて登場人物の行動を具体的に捉えさせる。 ◇挿絵から二人のしあわせな気もちの理由の違いに気づかせたい。	
9・10	○音読劇で読みたいところを決める。 ○グループごとに練習し、感想を伝える。	◇読み方（声の出し方など）や動きについて、音読の工夫を考えさせる。	登場人物の行動や、表情、口調、様子などを想像して、音読している。 【思・判・表】
11	○1年生に音読劇を発表する。 ○単元全体を振り返る。	◇それぞれの工夫のよかった点を中心に感想を交流する。 ◇想像したことを音読劇で表せたかななどをふり返らせる。	友だちの音読を聞いて、読み方や動きについて思ったことを伝えあっている。 【思・判・表】 これまでの学習をいかし、想像したことを音読劇にあらわそうとしている。 【主】
12	○「この本、読もう」を使って同じシリーズの他の本を紹介し、読書意欲を高める。		感想を伝え合い、自分と他者を比較して、共感したり、付け足したりしながら、より豊かに物語の良さを感じている。 【主】

8. 本時の目標

がまくんとかえるくんの行動や思いを話し合い、お互いに相手を思っていることに気づくことができる。

9. 本時の判断規準

十分満足できる状況	概ね満足できる状況	努力を要する子どもへの支援
話し合いを通して、がまくんとかえるくんの相手を思う気持ちについて根拠をもって具体的に考えることができている。	話し合いを通して、がまくんとかえるくんの相手を思う気持ちに気づくことができている。	がまくんやかえるくんの気持ちがわかる行動・表情・口調・様子に着目させる。 話し合いを通して、自分の考えをもてるようにする。